

登場人物…

竹田 主人公

天野 竹田と同じクラスだが学校に来たことがない

石津 竹田の同じクラス

御幸 竹田と同じクラス

S1 教室

竹田、教室の真ん中の席に座っている。前後左右の席の人から話しかけられる

右 竹田、ちよつとルーズリーフくれない？

竹 いいよ

後 竹田、ノート見せて

竹 いいよ

前 竹田、シャー芯ちようだい

竹 いいよ

左 竹田、教科書見せて

竹 いいよ

先生、教室に入ってきて授業を始める。

竹田、前後左右の席の人と常にもものやりとりをしている。ノート、シャーペン、教科書、消しゴム、ルーズリーフなど

先 竹田、授業に集中しろー

竹 すみません

竹田、軽く頭を下げる。教室中からクスクスと笑う声

前後左右の席の人たち、合掌して竹田方を見る

S2 帰りのホームルーム

竹田、机に入れている荷物（大量）を鞆に仕舞う

先 はいじゃー席替えするぞー。クジは適当に引いてくれー

先生、教卓に箱を置き、生徒たちは順番にクジを引く

竹田、後の方でクジを引き、番号を確認してから黒板を見る。対応している席を確認して近づく、その席の横には御幸がいる

石津、後ろから竹田に声をかける。囁き声

石 なあ竹田

竹 なに

石 一生のお願いだ。席交換してくれ

竹 なんで

竹田、御幸の方をチラッと見る

石 ちよつとな、御幸さんとお近づきになりたくって

竹 普通に話しかければいいんじゃないの

石 物理的にだよ！

竹 物心二元論は好きじゃないなあ

石 ちなみに俺、一番後ろだよ

竹田、石津の番号を確認して黒板を見る。一番後ろで窓から二番目。窓際の席にはバツテンがついている

石 な、いい交換条件だろ

竹田、自分の持っている番号と御幸を交互に見る。黙って石津の持っている番号札と交換する

石 恩に着るぜ

石津、竹田の肩をポンと叩いて御幸の横の席に移動する。座りながら御幸に話しかける

竹田、石津が御幸に話しかけているのを一瞥してから番号の席へと行く。荷物を下ろして机に入れて、黒板にバツテンがつけられていた席を見る。口を真一文字にしてしばらくその状態でいる

S 3 放課後部室

竹田、小さな部室にある机の上に教科書を広げて勉強している

御幸、部室に入ってくる

御 やっほー！

竹 やっほー

御 元気ないなあ

竹 あんまり必要じゃないからね

御 すぐそうやって引きこもるんだから

竹 必要な分は御幸に貰ってるから大丈夫

御 あらく照れること言いますね〜！

御幸、竹田の向かい側に座って雑誌を出す。雑誌名FOU（フォーユー）、表紙が見えるように竹田に見せびらかす

竹 今日はなに

御 天野さんに関する仮説

竹 誰だっけ

御 竹田の隣に空いてる席の主よ

竹 あー、入学式から来てないって言う

御 そうそう

竹 よく知ってるね

御 結構有名だよ

竹 俺の隣だっけこと

御 ふふん。見ちゃったんだよね〜

竹 なにを

御 そうまでして後ろの席がよかったのか、それとも私が嫌われちゃったのか……後者じゃないといいんだけどな

〜！

竹 後ろの席が良かった

御 そうかそうか。私を嫌ったわけじゃないのね、幼なじみ

冥利に尽きるよ……

竹 うん

御幸、口をへの字に曲げて不満そうな表情をする

竹 それで、天野さんがどうしたの

御 あーえとね、うん

御幸、F O Uをめぐって見開きのページを竹田に見せる

御 これよ！

竹田、見開きの内容を見る

竹 キャトルミューティレーション？

御 そう！ 通っぽく言えばね、天野さんはU F Oにキャト

られたってことよ！

御と竹 そんなバカな

二人ハモる。御幸は竹田に勝ち誇ったような顔、竹田は真

顔

御 これにはいくつか根拠があつてだね、入学式の日到我々

の最寄り駅でU F Oを見たって話と天野さんには搜索願

が出てるって噂があるわけよ！

竹 それがどうしてキャトルなんたらに結びつくの

御 あの駅、汚れとかのせいでそこかしこに怪物みたいなもの

が見えるじゃん

竹 御幸子供の頃めっちゃ怖がつてたね

御 あれね、シミュラクラ現象つて言つて、三つの点がある

と人間の顔みたいに見えるわけよ

竹 へー

御 それにね、不気味の谷つていう現象があつて、これは動

物とかロボットとかを人間の顔に寄せていくとある段階

まではよく見えるのに、そのある段階を超えるとものつ

すごく不気味に見えるつていうもんなのよ！

竹 それで、そのシミュラクラと不気味の谷を結びつけたの

ね。でもまだ宇宙人までは遠くない？

御 いい質問だねえ！ そう、そこよ。私が気になったの

は不気味の谷はどうしてあるのかつてことよ

竹 なんか心理学的な説明ができそうだけど

御 もつと根本よ

竹 なに

御 人間をデザインした宇宙人が、谷の顔をしてたからじゃ

ないかつて……どうよ！

竹 インテリジェントデザインとも組み合わせたわけね。な

くはないんじゃない？

御 面白いでしょう

竹 面白いと思うよ

御 へっへーん

御幸、腰に手を当てる胸をそらし得意げにする

竹 でもさ、一つ欠陥があると思うよそれ

御 なに

竹 不気味の谷ってさ、人によって大きさも深さも違うと思

うんだよね

御 確かに

御幸、顎に手を当てる考えるそぶりをする

御 竹田さ

竹 なに

御 あれ怖がったことなかったよね

竹 うん

御 竹田が宇宙人だったりして

御幸、とびつきりの笑顔で竹田を見る

S 4 駅のホーム

天野、駅のホームで立っている、夕日が天野の顔に当たる

電車が来る

天野、乗ろうとするが急に辺りが暗くなって電車も周りの人も消える。腕時計を見て時間を確認しようとする針がグルグル回って分からない

朝日が天野の顔に当たる

電車が来る

竹田、電車に乗ろうとする

天野、竹田をじーっと見つめる

竹田、天野を一瞬見るが、気にせず電車に乗る

天野、乗るが、景色が急に動いたと思ったら電車が止まる、外も真っ暗で電車の中の明かりも消える

S 5 クラス

竹田と石津、教室の後ろのドア付近で話している

石 竹田、知っているか。1ヶ月に一度しか現れない女子生徒がいるらしい

竹 ただの不登校とか病気とかじゃないのか

石 それが、毎日街中のどこかで見かけられるらしいんだ

竹 家を出たけどやっぱり帰ったんじゃないのか

石 それが、先生が家庭訪問したら家に謎のバリアーがあつて入れなかったらしい

竹 へー。そりゃ珍妙な

御幸、二人の会話に入ってくる

御 天野さんの話？

石 そうそう前に御幸が言っていたやつ

竹田、御幸に気づいて一步後ろに下がる

石 時空の歪みに巻き込まれたんじゃないかって話だ

竹 なんかなタが拡大しているな

御 想像は万物の元よ

御幸、竹田に一步近づくが、竹田は更に一步下がる

石津、二人に合わせて一步横にずれる

竹田 そうは言ってもな

先生、教室に入ってくる

先 ホームルーム始めるぞー席につけー

石津、肩を竦めて教室の前の席に向かう

御 それじゃあ放課後部室で

御幸、竹田に声をかけてから教室の前の席に座る

竹田、教室の後ろの窓際一個手前の席に座る

竹田横の席は誰も座っていない

竹田、その席をしばらく見続ける

S 6 部室

竹田、部室に入る。ドアにはオカルト研究会という札がか

けられている。中にはすでに石津と御幸がいる

御幸、竹田に気づく

御 おそーい

石 うんこか

御幸、石津の肩をどつく

竹 この前の小テストの質問しに行ってた

御 真面目か！

石 そんなことするのは竹田だけだな

石津、得意げに言って、一人で腕を組んでうんうんと首を

縦にふるが、御幸は眉をひそめて口をへの字にする

竹田、御幸の方を見てちよつと不機嫌そうな顔をする

竹 てかそれよりもなにあの札。あと石津がどうしてここに

御 えと、それはね

石津、勢いよく立ち上がる

石 俺と御幸で先ほどここでオカルト研究会を立ち上げたの

よ

竹 みゆき……

竹田、石津を見てから御幸の方を見る

御幸、竹田に向かって合掌しながら仕切りに頭を下げる

石 そう、それでだな

石津、したり顔で鞆から雑誌を取り出す。雑誌名FOU(発

行年は20年前)

石 竹田。これを見て

竹 なにそれ

石 間借り料

竹田、露骨にい嫌そうな顔をする

石 御幸とUFO談義で意気投合してね、こうなったのよ

御幸、竹田に向かって合掌しながら仕切りに頭を下げる

竹田、それを見てため息をつきながら突き放すような口ぶりで話す

竹 UFOってもう匂じゃないだろ

御幸、急に居直って竹田の方を見て口を尖らせてまくし立てる

御 UFOが旧世紀の遺物だなんてそんなことはない！

竹 そこ迄は言っていない

御 時代の変わり目に忘れ去られて思い出されなくなつて可

哀想とは思わないのかい！？

竹 UFOに感情移入はしないよ

石 宇宙人には？

竹 わざわざ地球くんだりに来るわけだし鳥流しか何かだろう。そうだったら同情するかも

石津、口をとがらせるも竹田に席を勧める

石 まあまあそこまで興味津々ならどうだねオカルトしないか

竹田、石津を無視して椅子に座ってから教科書を取り出す

石 部室で勉強なんて不躰なやつ！

御幸、石津を睨む

石津、わざとらしく足を組み替えて窓の外を見て鼻歌を歌

う

竹 そもそも部室とは言っても空き部屋を勉強スペースとして使わせてもらってるだけだから

石 ロマンがないな。高校生活と言えば部室でしょ部室。

部室から始まる青春ストーリー！……なのに！

竹田、ノートも広げて本格的に勉強をし始める

竹 ここは部室じゃなくて勉強部屋

竹 杓子定規なやつ！ 尺取虫に食われちまうぞ！

竹田、無視して勉強を続ける

御 ごめんね？ 竹田……

御幸、合掌しながら深めに首を垂れる

竹田、石津の方は一切見ずに御幸の方だけをしばらく見つ

める

竹 仕方ない

石 ありがとー！ 心の友よ！

石津、机越しに竹田に抱きつこうとするが、竹田は石津の手を振り払う

石 仕方ない。俺らだけでUFO談義しよう

御 そ、そうだね

御幸、竹田の表情を盗み見ようとするが、石津は御幸の前にドンッとF O Uを置く

石 さて、お待ちかねF O Uの創刊号

御 そ、創刊号はすごい……

御幸と石津、二人並んでU F O本を見ながら話し始める

竹田、その様子を瞬盗み見てから、勉強に戻る

石 宇宙人もさー青春するのかな

御 ……そりゃあするっしょ

石 どんな感じなのかな。キャットた人間の解剖話に花咲かせてたりして

御 そんな怖いことするわけないでしょー！

石 お、怖くなったのか。帰り道送ってやろうか

御 いいですー！ 一人で帰れますー！

御幸、近くに置いてた自分の鞆を持ち上げて威嚇する

石 そうかそうか。お、このグレイ型の写真よくできてるなー

御 あ、これ不気味の谷って感じねー

石 不気味の谷って割と本能的だよな

御 こんな顔したインテリジェントデザイナーが無理やり類

人猿を改造したからかも

石 うわ、こえー。竹田はどうよこれ

石津、雑誌の写真を見せる

竹田、チラッとだけ写真を見る

竹 いや俺は別に怖くないけど

石 つまんねのー

竹田、ノートにひたすら単語を書いている

S 7 道端

竹田、一人で家までの帰り道を歩いている。視界の端に何か映り、それを追って見るとU F Oで、U F Oが空を舞い上がるのを見上げる

竹 あれに天野さん乗ってたりしてね。それとも、俺を連れ

てってしまうのだろうか

竹田、頬を両手で叩く。U F Oがいた方を見る。U F Oは

消えている

竹 まあ、そうだよな

S 8 朝の道端

竹田、人混みの中を歩いている

天野、人混みの中をキョロキョロと不安そうになりながら

歩いている。急に躓いて転びそうになる

竹田、天野の手を腕を掴んで助ける

天野、竹田をじーっと見る

竹 大丈夫？

天 あ、ありがとうございます。ございます

竹 その制服うちのだよ

天 あ、はい。一年生で

竹田、一瞬考えるそぶりを見せる

竹 もしかして、天野さん？

天野、驚いて唾を飲み込む

天 え、えと、はい

竹 学校行く？

天 そう、したいですけど

竹 ならこっちだよ

竹田、天野の手を引っ張って学校に向かって歩いていく

天野、おっかなびつくりで歩調を合わせながら歩く

天 どうして私の名前を

竹 なんとなく……かな

天野、首を傾げる

竹 あと友人が君のこと噂してたから

天 友人？

竹 そう。あ、自己紹介遅れたね。僕は竹田

天 あ、天野です。よろしくお願いします

竹 よろしく

S9 教室

少しざわついている

竹田、隣の席に天野を座らせる

天野、席に座ってから微動だにしない

石津、竹田に近づく

石 これはどういこと竹

竹 ながだ

石 お隣さん竹

竹 えと、犬のお巡りさんの真似？

石 どうやってキャトられた少女を助け出したかってこと

だ！

竹 いや別に

竹田、天野の方をみる

天野、視線に気づいて苦笑いする

竹 キャトられたわけじゃないと思うけど

天 えと……、はい

石津、天野に軽く会釈

石 放課後部室来いよな

竹 勉強しにいくよ

石 天野さんは？

天野、急に話を振られて戸惑うが、軽く頭を下げる

天 すみません。ちょっと職員室に行こうかと

石 そうか。自己紹介まだだった。俺は石津！ 以後お見知り置きを

石津、芝居がかった動作でお辞儀をする

S 10 駅

天野、駅のホームで立っている、夕日が天野の顔に当たる。

視線の先にUFOがいる

UFO、天野にどんと近づいていき、天野の顔面まで迫る

天野、UFOに気付いて驚き、掌を外に向けて片手で顔を守ろうとする

S 11 部室

石 てな感じじゃないかな！？

竹 そうかもな

石 そう言えば御幸は？

竹 今日来てたっけ

石 天野さんの話したかったのになー

竹 しょうがないだろ。ま、今日は静かな感じだし僕は勉強

に専念できるな

石 つまんねのー。天野さん探してこよ

石津、部室を出ていく

竹田、石津が行った後をしばらく見てため息をつく。鞆から教科書を出す

部室のドアを叩く音がする

竹田、無視をする

部室のドアを叩く音がする

竹田、一瞬迷うが返事をする

竹 どうぞー

天野、部室に入ってくる。大きな紙袋を持っている

天 失礼します

竹 あ、

天 えと、た、竹田さん

竹 はい。天野さんどうかした？

S 12 帰り道

天野の家に向かって竹田と天野が歩いている

天 それで、職員室行ったらいろんな人に問い詰められて大変でした

竹 そりやそうだろうな。その紙袋は？

天 教科書と色々いるです。始業式から来てなかったの

竹 そりやそうなるか。持とうか？

天 あ、えと、お願いします

天野、竹田に紙袋を渡す

竹田、紙袋を受け取るがちよっと重くて驚いて落としそうになる

天 大丈夫ですか！？

竹 大丈夫。思ったよりも重かっただけ

竹田、ふんぬっと踏ん張って紙袋を持ち上げて歩く

天 ありがとうございます

竹 別にいいよ。気にしないで

竹田と天野、微笑み合う

天 ところで

竹 どうした？

天 オカルト好きなんですか

竹 いや、どうしてそう思った？

天 オカルト研べてところにありますし、何やらお友達と私が

キヤトラれたとか話しましたし

竹 うーん。オカルト話をする友達が好きだけかな

天 そうなんですネ

天野、ふーんと言いながらスキップしながら先を行く

竹田、紙袋を持って追いつこうとする

しばらく二人が歩いて天野の家の前に着く

天 お家ここです

竹 そうか。じゃあ、これ

竹田、天野に紙袋を両手で渡す

天野、紙袋を片手で受け取る

天 ありがとうございます。では

竹 うん。またね

天野、家に入っていく

竹田、天野が家に入る様子を見る

天野、玄関を閉めるときに会釈をする

竹田、足元にキーホルダーが落ちているのに気づき、拾う。

天野ののだと思いいんターホンを鳴らそうとするが、見えない壁に阻まれて近づけない

竹 なんだこれ

竹田、しばらく調べるが家に入れず、諦めて帰る。掌のキー

ホルダーを見ながら歩く

竹 どっかで見たことあるなこれ

竹田、ポケットにキーホルダーをしまう

S 13 コンビニ

御幸が惣菜コーナーにいる

竹田、コンビニに入り、御幸に気づく

竹 御幸？

御幸、驚いて飛び上がる

御 た、た、た、竹田竹田

竹 そんなびつくりするなよ

御 いや、すっぴんだし

竹 あんま変わらなくないか

御幸、竹田をこづき、ファイティングポーズをとる

御 宣戦布告か？ あん？

竹 降伏します許してください

御 よろしい

竹田、バツが悪そうに頭を搔く。御幸の籠をみる。弁当や

惣菜がたくさん

竹 めちゃくちゃ買い込んでるな

御 あ、いやうち親がないこと多いから

竹 そうか。大変だな

会話が止まる

竹田、再び頭を搔いて何か言おうとする

御幸、黙ってそれを待つ

竹 ところで

御 ところで？

竹 天野さんが今日学校に来たみたいなんだ

御 へー

竹 あ、やっぱり今日来てなかった？

御 それくらい気付け！

御幸、竹田をこづく

竹 ごめんごめん。でも元気そうだな

御 ちょっと……ね

御幸、苦笑いしてバツが悪そうにする

竹 そうか。まあ元気だな

竹田、御幸と分かれてレジへ行く

S 14 天野に再び会う

竹田、人気のない道を一人で歩いている

天野、急に竹田横に現れる。ずっとニコニコしている

天 ねえ竹田くん

竹 は？ え？ 天野？

天 こんな夢はどう？

竹田と御幸、部室で談笑している

御 できー。この円盤型 UFO ってさー宇宙を前提にしているじゃん。そこで地球に降りた時に問題があると思うの

竹 空気か？

御 ご明察！ 空気抵抗を考えてないと思うんだよね

竹 たしかに

御 だからあんなにフラフラ飛んできると思うわけよ

竹 確かに。一理あると思う

御 ちょっと立って見て

御 幸、急に立ち上がる

竹 う、うん

竹田、よろよると立ち上がる

御 幸、竹田に手を伸ばす

竹田、御幸の手をとる

御 幸、満足そうに笑う。竹田の手をつかみながら部室の中をゆっくり歩く

御 そんなで、宇宙の中ではこうやって飛んでいるけど

御 幸、急に手を振ったり近づけたりしながらダンスを踊る

ようにして部室をぐるぐると回る

御 抵抗があるとこんな感じ！

竹 わ、わかりやすいな！

御 抵抗してもいいんだよ！

竹 お、おう！

竹田、御幸のペースに合わせて体を動かす。社交ダンスのような動きになる

しばらく二人で踊る

御 楽しいね！

竹 ああ！

竹田、御幸のカバンのキーホルダーに気付く

竹 あれって

御 なに？

御 幸、手をぶんぶんとふって竹田を投げ飛ばす

竹 ち、力つよ……

竹田、窓の外に飛ばされる

S 16 竹田の家

竹田、飛び起きる。汗がだらだら、息が浅いがだんだんと

落ち着いてくる

竹 夢、か……

深呼吸をする

竹 いい夢なのか悪い夢なのかよくわからないな……

枕元の水筒を掴み、水を飲む

竹 御幸……

頬に手を当てて暑さを確かめる。もう一度水を飲み深呼吸する

竹 天野は、こんな夢はどう？ とか言っていた気がするな
ゆつくりとベッドから降りる

S 17 教室

竹田、教室に入るが、近づいた石津を適当に追い払い、隣の席に天野がいるか確認する。竹田の席には御幸が座っている

御 お邪魔してるよー

竹 お、おう

竹田、夢を思い出して直視できず、どもる

御 どうした？

竹 な、なんでも

御 ふーん。どうぞどうぞ

御幸、大仰に手を振って席を譲り渡す。石津のところへ行き談笑し始める

竹田、椅子に座ってふうとため息をつく。机に頭をつけながら横目で御幸の方を見る。ふと制服のポケットに手を突っ

込んでキーホルダーを握る

竹 こっそり確かめるか

S 18 部室の手前

竹田、部室の手前まで来てドアを掴む
部室の中から御幸と石津の音がする。楽しそうな笑い声がある

竹田、ため息をつき、ドアから手を放し、帰る

石 あれ、今竹田いた？

御 うーん。いたかも？

石 どうしてこないんだ

御 天野さんのところだったりして

石 そんなマッカーサー！

御幸、石津を睨み付ける

S 19 帰り道

竹田、人通りの多い道を逃げるように走る。何人かぶつかりかけて怒鳴られる

急に天野の声がして立ち止まる

天 ねえ、あの二人、一緒に帰ってるみたいだよ

天野、急に竹田の横に現れる

竹 な、なんだ急に出てきて！

天 あれ、動揺しちゃってどうよう？

竹 関係ない話だ

天 本当に？

竹 本当だ。俺は急ぐ

天 どうして急ぐの

竹 用事があるんだ

天 走ったって自分からは逃れられないよ

竹 そんなことはない！

天 正直になりなよ

竹 お前は何かしたいんだ！ 宇宙人なのか！ キャトリた

いのか！

天 べつにー。あ、そうだ

竹 田、走るスピードを上げる

天 こんな夢はどう？

急に景色が変わり、あたり一面草原に、青い空

竹 田、驚いて立ち止まり辺りを見渡す、振り向くと目の前

には、仮面をつけた竹田がいて驚いて硬直する

竹 えっ

仮面、竹田に手を伸ばす

竹 田、我に帰ってその手を振り払い、草原を全力疾走する

仮面、それを追いかけて、竹田にタックルをして転けさせる

竹 やめろ！ 誰だ！ 何をやる気だ！ 天野なのか！ や

めろおおおおお！！！！

仮面、竹田の頭に手を伸ばし、掴む

無音になる

S 20 襲撃

仮面、道に立っている。石津と御幸が前の方から歩いてい

くる

仮 み、み、み……み、ゆ、き……

仮面、御幸に向かって歩き出す

石津、仮面に気づき仮面の前に立ち塞がる

仮 お前が！ お前がああああ！！！！！！

仮面、石津を襲う。型も何もないストレートをひたすら放

つ

石津、仮面の攻撃を全て避け距離を取るが、次第に追い詰

められて後は電信柱

仮面、その隙に石津を殴ろうとするが

御幸、石津の前で両手を広げて守ろうとする

仮 どう、して……

S 21 竹田の家

竹田、飛び起きる。汗がだらだら、息が浅いがだんだんと落ちて着いてくる
竹 夢、か……

竹田、深呼吸をする

竹 ほんとに夢だったのか？ 記憶が全然ない。あの仮面は

なんなんだ

竹田、ゆっくりとベッドから降りる

S 22 登校

竹田、人気がない道を歩いている。ふとゴミ捨て場に見覚えのある紙袋を見つめる。中身を見ると天野が持っていた教科書。その中に一枚和紙のようなものがあった、それをそつと抜き出す。内容を見る

和紙には赤黒い文字で「放課後、校舎裏で」

竹田、驚いて紙を放り投げて逃げるようにしてその場を離れ、走って家へと帰る

竹 放課後っていつのだ。あれは誰に向けてのだ。どうして教科書を捨てていた！ あの夢は、あの夢は！

S 23 竹田の家

竹田、玄関に入って靴も揃えず上がると自分の部屋に入り鍵を閉める。制服そのまま布団を頭からかぶる。ぶるぶると手が震えている

S 24 部室

石津と御幸が談笑している

石 今日竹田休みだったな

御 なんか昨日も調子悪かったみたいだし

石 大丈夫かなー

御 お見舞いとか行ってみようかな

石 いいね。ちょっと聞いてみる

石津、竹田に電話をかける

呼び出し音がなつてからすぐに竹田が出る

石 おつ竹田、元気か

竹 お前！ 元気か大丈夫か？

石 病人に心配されるほどじゃねーよ

竹 そうか。なんか変なやつに襲われたりしてないか？

石 変なやつ？ いや全然。そういや天野さんまた来なく

なつてな。変なやつって言ったら彼女くらいだ

竹 そうか、よかった

石 どうか、したのか？

竹 いや、悪い夢を見たんだ

石 ははっ。悪夢でびびってオサポリとはいいいご身分だ

竹 ああ、そうだな……電話ありがとう

石 気にすんなって。あ、そうそう御幸もいるけど

石津、御幸の方をみる

御幸、首肯して携帯を寄越すよう手招く

竹 み、御幸か。いや、大丈夫だ

石 あ、そうか

御幸、口をとんがらせて外方を向く

竹 また、明日な

石 おう。いい夢見るよ

石津、電話を切る

石 あらら。振られちゃってやんの

御 明日来ても労ってやんない

石 かわいいそー

御 どっちがよ！

石 どっちも

S 25 夜、自室

竹田、布団をかぶって震えている。息が荒い。苦しくなっ

て布団を少し開ける、月明かりに気づく。布団から顔を出してカーテンを開けて、窓の外を見ようとする。窓に自分の姿が映った瞬間に驚愕する

手がだんだんと震えてきて、その震えが大きくなってくる。その手で顔を覆って荒い呼吸を繰り返す

竹 おれ、宇宙人なのか？

S 26 登校途中

竹田、登校して人気のない道を歩いている

竹 なんのようだ

天 なにって、用がなきやダメ？

竹 なにが目的だ

天 目的がなきやダメ？

竹 俺に変な夢を見せているのはお前か

天 お前だなんて失礼しちゃう

竹 答えろ

天 深淵を覗いている時、深淵もまた覗いているってよく言うよね

竹 何が言いたい

天 押し込めて押し込めて心の奥底深くに眠る感情って、弱
いと思う？ 強いと思う？

竹 奥底にいるんだからそれは最も遠い……弱い感情なん

じゃないのか

天 押し込めた分だけ感情は強くなっていると思うの。だから次第に疎外されちゃう

竹 誰の話だ

天 心当たりあるんだ

竹 そういうわけじゃない。お前が俺に関わっているってことはそういうことなのか

天 能面って見る人によって表情が変わるって言うよね。あなたの仮面はね、嬉しそうだったよ

竹 ……帰る

天 それじゃあさ、こんな夢はどう？

S 27 竹田が小学生の頃、ランドセルを2つ背負っている

小学生の竹田、川土手をランドセルを2つ背負いながら歩いている

小竹 ちょっとー、待ってよー！

小御 まったないよー！

小学生の御幸、小学生の竹田の10メートルほど前を上機嫌に歩いている

小御 じゃんけんで負けたのが悪いんだぞー！

小竹 御幸ちゃん重いよー！

小御 こらー！ 重いとかなうなー！

小竹 だってー

小学生の御幸、立ち止まって竹田の方に振り返り、笑顔を向ける

小学生の竹田、だらしく口を横一杯に広げて笑いながら小学生の御幸に追いつこうとする

小御 ほらー早く早くー！

小学生の御幸、スキップしながらどんどん竹田から遠ざかる

小竹 置いてかないでよー！

小学生の竹田、すてんと転ぶ

竹田、小学生の竹田の横に急に現れる

竹 歩けるか

小学生の竹田、涙目になりながら首を振る

竹 ほら、おぶってやるから

竹田、小学生の竹田を背負う

竹 あの子、結構遠くまで行っちゃったな

小竹 御幸ちゃん。いっつも置いてくんだよ

竹 そうか。そうだな

竹田、小学生の竹田を背負いながら小学生の御幸の方に向

かって歩く。二人とも黙って歩く

竹 なあ

小竹 どうしたの

竹 御幸ちゃんのこと好きか？

小竹 べつにー

竹 素直じゃないんだな

小竹 違うしー！

天野、急に竹田横に現れる

天 竹田くん

竹 あ、天野か。急にどうした

天 それ

竹 うん？

天野、竹田の背中を指差す

竹田、首だけ振り向かせて背中を見る。子供大の石を背負っ

ている。驚いて石を落とす

竹 な、なんだこれは！

天 私に聞かないでよ

竹 じゃあ誰が見せるんだこんな悪夢！

天 自分じゃない？

竹 おまえ……宇宙人か？

天 そう見える？ でも竹田くんが宇宙人なのかもよ

竹 どうしてそう言える

天 石津くんを襲ったあの仮面はさ、あなたでしょ

竹 仮面……

天 自分の中にいるもう一人の自分、とでも言うのかな

竹 ああ、

天 あなた自身が望むものを見てきたわけよ。石津くんを襲

うのもそうだけど、御幸との思い出だってね

竹 ふつ、そうかもな

S 28 竹田の家

竹田、飛び起きる。ベッドから降り走って台所へ行き包丁

を取り出す。包丁を見つめる。力を込めて握ろうとするがう

まく握れず、両手で押さえ付けるように握る。深呼吸を何度

もする。包丁を腹に突き立てようとする

S 29 教室

石津、竹田を心配そうに見る

石 顔色悪そうだけど大丈夫か

竹 石津

石 な、なんだよ

竹 お前は、そうだな。凶々しくってガサツだが、意外と思

いやりがある

石 お、おう

竹 良い奴ではないが、悪い奴でもない

石 さてはバカにしているな？

竹 褒め言葉だよ

竹田、目を細めて石津に笑いかける

石 なんか気持ちわりーな。まあ、養生してくれや。御幸も

悲しむだろうし

竹 ありがとう

石津、自分の席に戻る

竹田、制服のポケットに入ったキーホルダーを出す

竹 これを、御幸に渡して、終わりだな

竹田、キーホルダーを握りしめる

教室がざわつき始める

石津、席を立って竹田ところへ駆け寄り、教室の後ろの

ドアを指差す

石 お、おい竹田あれ

竹 どうした？

竹田、石津の指が差す方向を見る

竹 え、そんな

御幸と天野が二人で喋りながら教室に入ってくる

天野、竹田に気付いて近寄る

天 竹田くんこんにちは。先日はありがとう

天野、混じり気のない笑顔で竹田に話しかける

竹 こ、こんにちは。元氣、そうだね

竹田、御幸の方を見るが、顔の輪郭がはつきりとせず表情が読み取れない。焦って浅い呼吸を繰り返す

S 30 ベッドの上

竹田、布団をかぶって怯えている

竹 どっちだ。どっちなんだこれは、どこからどうなってい

たんだ

手のひらを開ける。中からはキーホルダー

机の上に手を伸ばし、カッターを手取る

竹 鬼が出るか蛇が出るか

腹の中の空気を限界まで出して深呼吸をする。唾を三度飲

み込む。カッターの刃を出し、じーっと見つめる。再び唾を

飲み込む。何度か刃を出し入れする。目をつぶる

しばらくしてから目を開ける。カッターを握る手に力を込

め、ゆっくりと自分の指に刃を沿わす。手が震える

刃がなかなか通らず苦戦するが、息を止めて一気に力を入

れる。血が出る

竹 血が出たか……

S 31 放課後後者裏

天野、校舎裏で夕日の影になっているところで、壁に背
中を預けて立っている

竹田、汗をかきながら天野のところへ来る

天 やつときた

竹 待たせちゃったな

天 レディーを待たせるなんて最低だよ

竹 ああ、悪かったよ。御幸

天 私は天野だよ？

竹 オカルト研究会の部室にどうして来れたんだ？

天 どうしてって先生に聞いて部室棟を探したら偶然？

竹 あそこはな、オカルト研究会の部室じゃない、ただの空

き部屋だよ

天 何階にあるかってのと何番目の部屋かって聞いてたから

だよ

竹 さっき偶然と言っていたのと矛盾していないか

天 運命っぽさを演出したかったただだよ

天野、唇に指を当てて微笑む

竹 そういうことにしておくか。まあいい、このキーホルダー

を返そう

竹田、ポケットからキーホルダーをだし、手のひらに載せ
て天野に見せる

天 わーありがとう！ ずっと探してたんだよねー！

竹 これ、御幸の鞆についでるのと一緒だよな

天 よく見てあげてるんだね。だから私が御幸だと思ったん
だ

竹 今の御幸の鞆から落ちてたら、天野さんが御幸で確定だ

と思うんだが

天 ほんとにそう思う？

竹 ああ

天 これ渡しちゃったら、これから素面で御幸と話さなきゃ

いけないんだよ？ 緊張しない？

竹 まあ、こうやってノーガードで話すのも悪くないと思っ
てたところだけだ

天 だけど？

竹 ちよつと、急展開についていけないや

竹田、照れ臭そうに頭を掻く

天 ふーん、まあいいや。でも一つ言っておくね

竹 なんだよ

天野、竹田に一気に近づいて耳元で囁く

天 これが宇宙船の鍵だったりして

竹田、反射的に天野から離れる。手のひらを広げてからぎゅつと力強く握る

天 ふふふふふふ

天野、表情を変えず笑い声だけ出しながら竹田に近づく

竹田、その場から走って逃げ出す

S 32 道、信号

竹田、ひたすら人氣のない道を走る

竹 はあ、はあ、そろそろ、まいたか

後ろを振り向いて誰も来ていないのを確認する。ほっと一息ついて、歩こうとする

クラクシヨンの音が通り過ぎる

竹田、誰かに腕を掴まれる

御 ちよ、竹田、赤信号だつて！

竹田、御幸を見て、赤信号を見て、自分の立っているところを見る。点字ブロックから少しはみ出たところに立っている

竹 御幸、か

御 そうだよ！ 大丈夫！？ やっぱ熱あるんじゃないの！？

竹田、一歩二歩と後退する

竹 御幸、ありがとう

御 う、うん。どういたしまして

竹田、大袈裟に息を吐く

御 大丈夫？

竹田、御幸の手を掴む

御 な、なに？

御幸、慌てる。竹田の顔を見ずに喋る

御 どうしたの急に

竹 部室に行こう

竹田、御幸の手を掴んだまま学校に向かって走り出す

御 ちよ、ちよつと待ってつて！

S 33 部室

竹田と御幸、部室に入る。手は繋いだまま。椅子に座ろうとした時、二人とも手を繋いでいたことを思い出す。顔を見合わせて照れ笑いする。手を離していつも自分らが座る位置に座る

竹田、座るいやいなや喋り出す

竹 なあ御幸

御 どうしたの竹田

竹田、ポケットからキーホルダーを出し、御幸の前に置く
御 これ……

竹 やつぱり！

御 うん？

御幸、鞆を竹田前に出し、そこについているキーホルダー
も見せる

御 お揃いだね

竹田、脱力して椅子にもたれかかる。片手で顔を押さえて
堪えるように笑う

竹 は、はははは。ふふ、ふはははは、ふは

御 ど、どうしたの

竹 はははは、ふははは、は、は……はあ。お揃いな
嬉しくって

御 へへ。私も

竹田、手を膝の上に置き、椅子を引いて座り直し、姿勢を
正す

竹 なあ御幸

御 なあに竹田

竹 好きだ

御幸、驚いて瞬きもせず竹田を見つめる。竹田、見つめ返
す。しばらく二人とも見つめ合う

御幸、笑顔になる。竹田もつられて頭をかきながら照れ笑
いし、ちよつと目線を外す。目線を御幸の方へ戻す

飯面、御幸がいた場所に現れる。御幸はいなくなっている

竹田、盛大にため息をつく

竹 更に分からなくなってきた

飯 カッターは、痛い

竹 そうだな

飯 包丁はもつと

竹 そらそうだ

飯 だが、この深く抉られるような心の痛みは、どんな鋭い

刃よりも、痛い

竹 ああ、そうだな

飯 ならば！

竹 その前に、

竹田、入り口の方に向き、大声を出す

竹 いるんだろ！ 天野！

天野、呼ばれてすぐに部屋のドアを開けて入ってくる

天 こんにちは。竹田さんたち

竹 挨拶はいい

天 つれないなあ

竹 用件を聞こうか

天 ちよつとした疑問なんだけどいい？

竹 手短に済ましてくれ

天 よく創作の中で現れる人の感情が固まってできた悪霊とかいるじゃない。あれって別々の感情で作られているのかな。それとも同じ感情をみんなして持っているってことなのかな

竹 何が言いたい

天 私を作っているのは誰で、竹田仮面くんを作っているのは誰かって話

竹 さっきの口ぶりでは何人かで集まって君らを作っていることになると思うが、俺以外に誰かがいるってことだな

天 そういうこと。それじゃあこっちに来て

天野、竹田の手を引いて部屋を出る

S 34 蕾もまだない桜の木の下の

竹田、天野に手を引かれて桜の木の下に来る

天 真珠貝で墓を掘るの、そしたら私が蹴っ飛ばして墓穴掘りーって言ってやるから。百年後に会いましょう

竹 ああ、

竹田、墓を掘る

天野、竹田を蹴飛ばして墓穴に落とし、土を放り込んで埋

めていく

天野、埋め終わったらその上に座り込む

空が明るくなって暗くなってを三度繰り返す

仮面、天野のところへ来る

天 仮面の竹田くん

仮 ああ

天 ごくろうさま

仮 そっちこそ

仮面、段々と燃えていく

天野、掌を広げたらその中に位牌がある。立ち上がって桜の木に向かって位牌を投げつける

桜の木が急に花を咲かせ始める

竹田、墓穴から現れる

天 夢見心地はどうだった？

竹 夢の世界は誰にでも優しいものだな

天 けど多分、あなたの描く夢はこの程度なのよ。現実はお説よりも奇々怪々よ。そろそろ夢から覚めてみたら

竹田、首を傾げる

天野、自分の髪を掴んでひっぺがすと御幸になる。上目遣いに微笑む

竹田、下を向いて頭をかくと、御幸に対して苦笑いする

御私も好き

~uf~